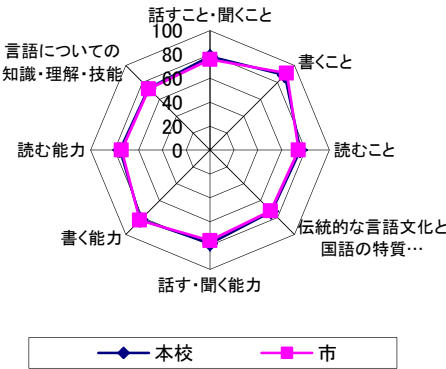


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.3	75.9	72.1
	書くこと	88.7	91.0	79.2
	読むこと	75.6	74.1	71.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.7	72.0	73.0
観点別	話す・聞く能力	78.3	75.9	72.1
	書く能力	82.5	83.3	72.2
	読む能力	75.6	74.1	71.1
	言語についての知識・理解・技能	73.0	72.5	72.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

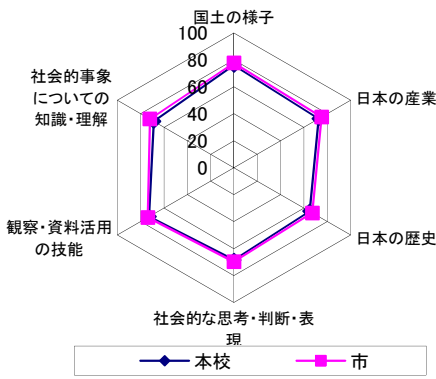
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本領域全体の正答率は78.3%で、市の正答率より2.4ポイント上回った。特に、相手の意図を考えながら話し合いの内容を聞く設問は5ポイント、司会者の役割を理解して計画的に話し合う設問では3.4ポイント、市の正答率を上回った。 ●司会者の役割を理解して立場や意図を明確にして話し合う設問では1ポイント、市の正答率を下回った。	・日常生活の中で、教師や友達の話をしっかり聞き、内容を互いに確認し合う活動を意図的に行うようにする。また、国語の授業や特別活動などにおいて、話し合い活動を積極的に取り入れ、司会者の役割を全員が経験できるようにするとともに、司会者としての立場を明確にし、話し合いの意図を確認する作業を取り入れながら、話し合いが計画的に進められるよう支援する。
書くこと	●本領域全体の正答率は88.7%だったが、市の正答率より2.3ポイント下回った。特に、作文を2段落構成で書く設問では5.5ポイント、自分の意見とその理由を区別し、「その意見に賛成する理由」を書く設問では2.4ポイント、市の正答率を下回った。 ○指定された長さで文章を書く設問では0.1ポイント、「AさんとBさんの意見のうち、どちらに賛成か」を書く設問では0.9ポイント、市の正答率を下回った。	・日頃から、行事の振り返りやテーマに沿った作文を、指定された長さで書くような機会を数多く設け、字数を意識した作文が書けるようにする。また、段落構成にも気を付けながら、自分の意見を明確にし、その根拠となる理由を適切に文章に表すことができるような支援をしていく。
読むこと	○本領域全体の正答率は75.6%で、市の正答率より1.5ポイント上回った。特に、与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書く設問では6.7ポイント、与えられた情報を読み取り、パンフレットの書き方の工夫をする設問では4.9ポイント、市の正答率を上回った。 ●物語の内容から、登場人物の心情を読み取る設問では、5.1ポイント市の正答率を下回っている。	・今後も読書指導を充実させ、たくさんの良い本と出会う機会を数多く持たせていく。また、国語の学習では、物語教材の登場人物を明らかにし、その言動を色分けして読み取ったり、人物の心情を読み取る活動に時間かけ、児童の実態に応じて、心情曲線や吹き出しなどを取り入れたりしながら、心情の変化に気づくような授業の展開を心掛けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本領域全体の正答率は72.7%で、市の正答率より7ポイント上回った。特に、6学年配当漢字を読む設問では9.2ポイント、三字の熟語の構成について理解する設問では6.5ポイント、市の正答率を上回った。 ●5学年配当漢字を書く設問では、13.5ポイント、俳句についての理解を問う設問では、3.1ポイント、市の正答率を下回った。	・日頃より、漢字の読み書きに触れる機会を多くもたせ、感覚を身近なものと感じさせていく。書く活動では、新出漢字を正しく書くとともに、既習の漢字についても繰り返し練習や見直しをさせるようにする。また、熟語や同音異義語などにも積極的に触れさせ、文章の中で適切に活用できるよう支援していく。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.9	77.6	77.6
	日本の産業	72.6	75.1	67.5
	日本の歴史	64.8	67.2	62.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.5	69.7	64.7
	観察・資料活用	72.7	73.8	68.5
	社会的な事象についての知識・理解	68.7	72.0	67.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

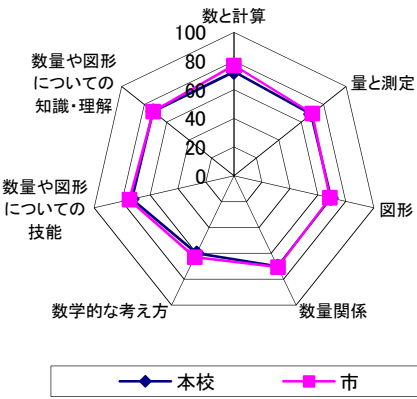
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●本領域全体の正答率は75.9%で、市の正答率の77.6%を1.7ポイント下回っている。特に、日本の周辺の海洋名の設問では16.8ポイント、日本の周囲の国の国旗の設問では0.3ポイント、市の正答率を下回った。 ○北海道と沖縄に見られる家の写真を比較して、くらしの工夫について考察する設問では3.7ポイント、日本を通る台風の数を示したグラフについて把握する設問では0.9ポイント、市の正答率を上回った。	・国土の地形について、地図や写真などの資料を意図的に多く活用し、位置や地名などの確認を行うとともに、国名や国旗の種類などについても触れる機会を数多く設けるようにする。また、資料分析の力を高めるために、必要な資料の取捨選択ができるような活動を、授業の中で取り入れるとともに、資料の効果的な活用の仕方が理解できるよう支援していく。
日本の産業	●本領域全体の正答率は72.6%で、市の正答率の75.1%を2.5ポイント下回っている。特に、日本で生産された自動車の輸出に貨物船を利用する理由を考察する設問では9.5ポイント、野菜の産地表示や栽培方法について、日常場面に即して判断する設問では8ポイント、市の正答率を下回った。 ○日本の工業の移り変わりについて、学習課題に適した資料を選択する設問では3.5ポイント、食料生産にまつわる話題について、内容と関係の深い資料を把握する設問では0.9ポイント、市の正答率を上回った。	・日本の食料生産や工業生産について、資料から読み取った内容を、グループや全体で話し合う活動を多く取り入れ、考察する力を身につけられるようにするとともに、日常場面に即して考えられるよう、日頃からニュースを見たり新聞を読んだりするなど、世の中のことに興味関心を持つことができるよう支援していく。
日本の歴史	●本領域全体の正答率は64.8%で、市の正答率を2.4ポイント下回った。特に、鎖国中の日本と貿易を行った国についての設問では13.1ポイント、源平の戦いの時期を判断する設問では10.3ポイント、市の正答率を下回った。 ○ご恩と奉公についての知識をもとに資料について判断する設問では9.1ポイント、日本の縄文時代の生活の様子について関連する資料を選択する設問では7.3ポイント、市の正答率を上回った。	・歴史に関する本やテレビ番組などに触れる機会を数多く設け、歴史への興味・関心をより高めるようにしていく。また、文化や出来事などを系統的に理解する力を高めるために、授業の中で、年表や資料などを効果的に活用し、歴史への理解を深められるようにする。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.5	77.0	70.4
	量と測定	68.8	69.8	68.5
	図形	69.3	68.6	72.4
	数量関係	70.2	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	60.0	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	73.0	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	72.1	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

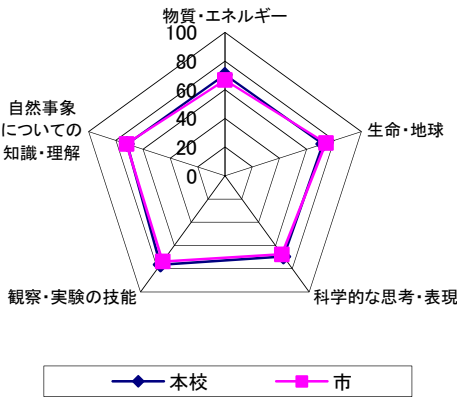
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本領域の正答率は72.5%で、市平均77.0%と比べ4.5ポイント低くなっている。 ・内容を見ると、「小数の計算」「分数の計算」の問題で下回っている。	・基礎的な計算については、今後も授業だけではなく朝の学習や家庭学習で繰り返し行っていく。特に小数・分数の計算については、重点的に指導していく。 ・分数の除法計算を数直線や図、式に表して考えさせる活動を充実させ、より理解を深めさせるよう指導を工夫する。
量と測定	・本領域の正答率は68.8%で、市平均69.8%と比べ1.0ポイント低くなっている。 ・内容を見ると、「面積と体積」の問題で上回っているが、「単位量当たりの大きさ・速さ」等で下回っている。	・速さについては、時速・分速・秒速の関係を量的なイメージを持たせたり、速さや時間、道のりの求め方を十分に理解させたりする。さらに、ドリルやプリントなどによる問題練習で習熟を図る。
図形	・本領域の正答率は69.3%で、市平均68.6%と比べ0.7ポイント高くなっている。 ・内容を見ると、「正多角形・合同・円周」の問題で上回っているが、「対称な図形・角柱と円柱」で下回っている。	・対称な図形の対応する点や辺の見方を育てるために、具体物を取り入れたり、作図させたりして、特徴を見いだせるような指導を工夫し、プリントなどの問題練習で習熟を図る。
数量関係	・本領域の正答率は70.2%で、市平均70.6%と比べ0.4ポイント低くなっている。 ・内容を見ると、「帯グラフから割合を読み取る」問題で上回っているが、「比例・反比例」の問題で下回っている。	・比例・反比例の理解を深めるために、問題文に沿った表を作成することや、xとyのきまりを捉えたりする活動を多く取り入れ、xとyの関係式を導く活動を一人一人丁寧に指導していく。特に比の問題についても普段の生活に関連付けて習熟を図る。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.5	66.8	63.6
	生命・地球	71.9	74.0	75.3
観点別	科学的な思考・表現	69.5	67.6	65.0
	観察・実験の技能	76.5	73.8	70.4
	自然事象についての知識・理解	71.8	72.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・本領域の正答率は70.5%で、市平均66.8%と比べ3.7ポイント高くなっている。 ・内容を見ると、「もののとけ方」や「水よう液の性質のはたらき」など、ほとんどの問題で上回っている。	・今後も自然現象についての理由を文章等で表現する力も育てるように配慮していく。 ・実験や観察においては、条件に着目して実験を計画したり、結果を的確に処理して考察したりする活動を大切に取り扱い、条件を制御する能力を育てる工夫を図る。
生命・地球	・本領域の正答率は71.9%で、市平均74.0%と比べ2.1ポイント低くなっている。 ・内容を見ると、「人のたんじょう」や「生き物のくらしと環境」で上回っているが、「植物のからだのはたらき」や「動物のからだのはたらき」で下回っている。	・全体的には、理科に関心が向くような話題や生活に生きる知識を増やす指導を工夫する。 ・「動物のからだのはたらき」については、消化や吸収、排出及び循環のはたらきを再確認することや、各器官が相互にかかわり合って生命を維持しているという見方や考え方を持つことができるよう復習的な場を設けていく。